

アドイン出荷検品 TypeA プログラム
for アシスタック Pro BHT-1300
取扱説明書 第1版



2017年 4月 20日
コンピュータ・アシスト株式会社

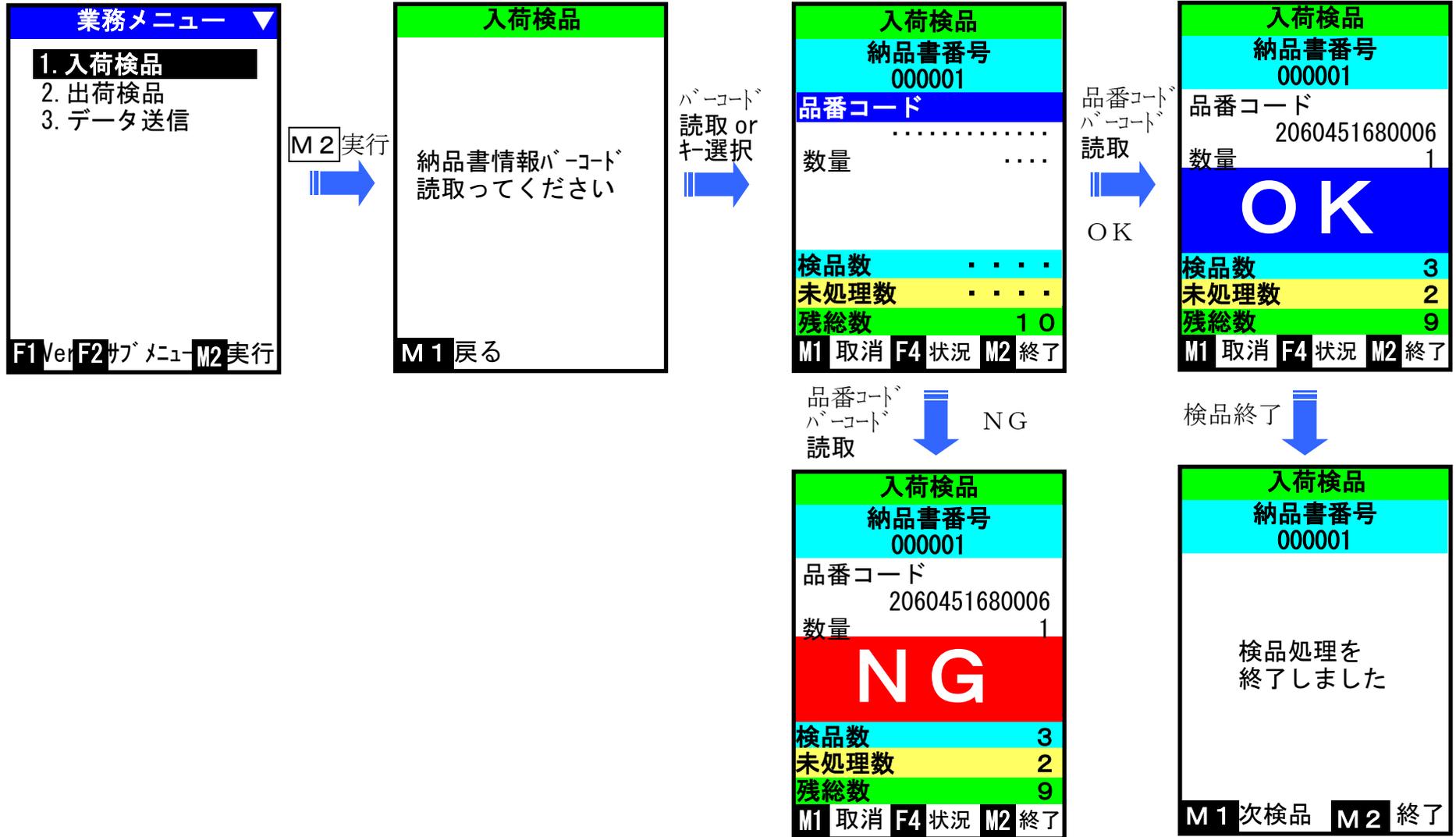


目次

1	プログラム概要	1
2	プログラムのインストール	2
2-1	アドイン入出荷検品プログラムダウンロード	2
2-2	入出荷検品プログラムの動作設定	4
1)	データ区分	5
2)	入荷／出荷情報バーコード読取設定	20
3)	動作設定	22
4)	データ保存	24
5)	設定更新	26
2-3	業務設定更新	27
3	アドイン入出荷検品プログラム実行	28
3-1	検品処理画面	28
3-2	入力／データ処理エラー表示	31
3-3	保存データ送信	32

1 プログラム概要

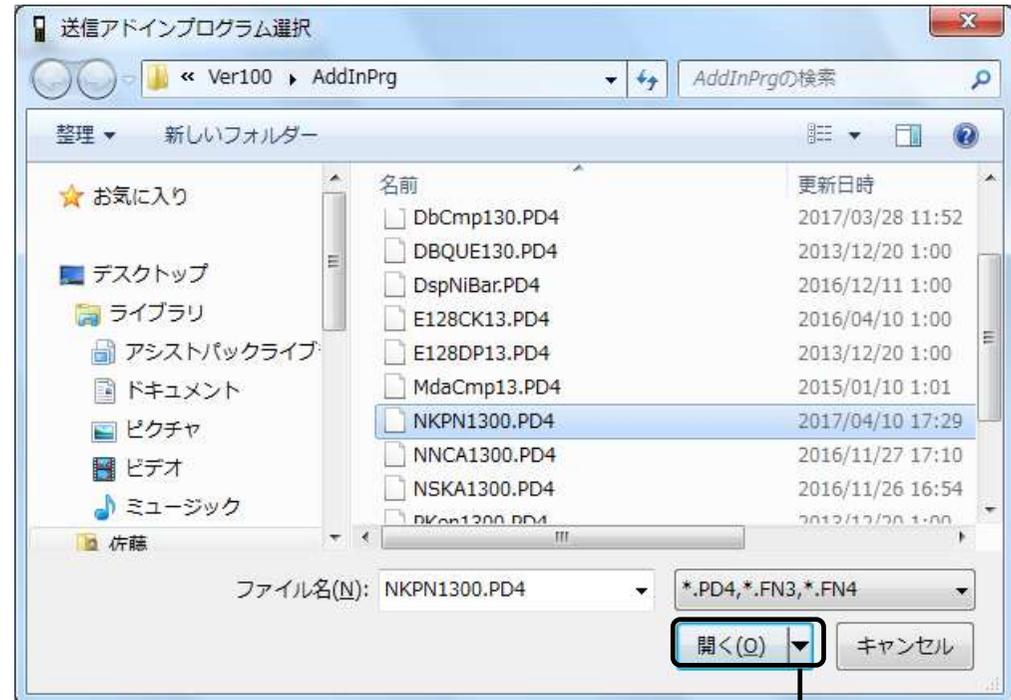
アシストパック Pro BHT-1300 のアドイン業務プログラムとして動作する入荷検品／出荷検品プログラムです。
 納品書の入荷／出荷の情報バーコードを読み取り、入荷検品／出荷検品の処理を行います。



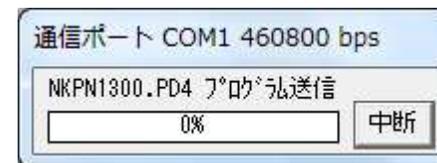
2 プログラムのインストール

2-1 アドイン出荷検品プログラムダウンロード

アドイン出荷検品プログラム「NKPN1300.PD4」をBHT-1300にダウンロードします。



NKPN1300.PD4 を
選択してクリック



サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
- 9. ファイル受信**
10. リモート受信

M1 戻る M2 実行



ファイル受信

通信ポート選択

- 1. CU-USB (460.8K)**
2. Bluetooth

M1 戻る M2 選択



ファイル受信

通信ユニットに
セットしてください

M1 戻る CU-USB



通信ユニット
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

NKPN1300.PD4 送信中

56%

中断



プログラム転送

正常終了

OK



2-2 入出荷検品プログラムの動作設定

業務設定において、動作モードに「アドイン業務プログラム」を選択し、プログラム名に「NKPN1300.PD4」を設定して「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしてください。

「アドイン業務プログラム」を選択

NKPN1300.PD4を入力

このボタンをクリックしてください

1) データ区分

担当者コードなどのデータ区分を使用する場合は、「データ区分」をクリックして [データ区分を使用する] をチェックしてください。

ここをクリック

「データ区分を使用する」をチェックする

マスターファイルを使用して情報を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル名」を設定します。

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列, 数字(0 詰め表示), 数字(0 上° り表示), 日付(YYYY/MM/DD), 日付(YY/MM/DD), 日付(MM/DD), 時刻(HH:MM)から選択します。
データ表示	入力データの標準表示, 横倍表示を設定します。
入力桁数	データ形式が文字列, 数字(0 詰め表示), 数字(0 上° り表示)のデータ入力桁数を、最大, 最小で制限します。
バーコード	[バーコード使用] をチェックして、[バーコード読取設定] ボタンをクリックするとバーコード読取設定画面を表示します。
情報表示マスター	[情報表示マスターファイルを使用する] をチェックして、情報マスターファイルを設定してください。 [マスターデータがない場合エラー]を設定すると、入力したデータがマスターファイルに登録されていないとエラーになります。



● バーコード読取設定

担当者 バーコード読取設定 (BHT-1300)

読取バーコード

JAN/EAN/UPC 雑誌コード

ITF なし あり STF なし あり

NW7 なし あり Code39 なし あり

Code93 GS-128/EAN-128/Code128 GS1 DataBar

QRコード iQRコード PDF417 Data Matrix

MaxiCode EAN・UCC Composite

ユーザー定義

読取桁数 最大 桁 最小 桁

JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット

データチェックを使用する

チェックデータ位置 桁目から

チェックデータ

チェック方法

入力データ選択 桁目から 桁

指定文字を削除する

キャンセル 確定

「1桁目から6桁」と設定した場合は、読み取ったバーコードデータの「1桁目から6桁」がデータ区分のデータになります。

「9999桁目から6桁」と設定した場合は、「末尾から6桁」がデータ区分のデータになります。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。(1 ~ 3500) NW7 の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード桁数エラー」と表示します。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
チェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	バーコードのデータフォーマットを「固定長」、「カンマ区切り」、「スペース区切り」、「タブ記号区切り」、「CR記号区切り」、「区切り記号指定」から選択します。データチェック、データ選択で使用します。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
入力データ選択	GTIN変換、チェックデジットをデータに含めない処理をしたバーコードデータからデータ区分の項目データにするデータを選択します。
指定文字左記所	指定した半角文字を削除してデータ区分の項目データにします。3文字まで指定できます。



○ 読取バーコード

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
書籍コード	先頭97のJAN-13と先頭19のJAN-13の2段バーコード読取 読み取ったデータは、26桁のデータになります。 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
雑誌コード	先頭49のJAN-13+アドオンコード5桁の合計18桁のデータ 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
ITF	チェックデジット(モジュラス10)の設定可能
STF	チェックデジット(モジュラス10)の設定可能
NW7	チェックデジット(モジュラス16)の設定可能
Code39	チェックデジット(モジュラス43)の設定可能 数字(0~9), 英字(A~Z), 6種類の記号とスペース
Code93	数字(0~9), 英字(A~Z), 6種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字(0~9), 英字(A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクспанデッド, エクспанデッドスタック
QRコード	マイクロQR, QRモデル1, QRモデル2 (BHT-1300Qのみ)
iQRコード	正方形iQRコード, 長方形iQRコード (BHT-1300Qのみ)
PDF417	マイクロPDF417, PDF417 (BHT-1300Qのみ)
Data Matrix	正方形Data Matrix, 長方形Data Matrix (BHT-1300Qのみ)
MaxiCode	BHT-1300Qのみ
EAN・UCC Composite	共通商品コード, EAN-128, RSSのCOMPOSITEバーコード (BHT-1300Qのみ)
ユーザー定義	2段バーコード, 3バーコード(BHT-1300Qのみ)の読取設定など、ユーザー独自に読取設定 をする場合に使用します。 ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>,, <第20読み取りコード> 不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。



□ Codabar (NW7)

書式： N [: [最小桁数 [-最大桁数]] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 39

書式： M [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 93

書式： L [: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



□ GS1-128/EAN-128/Code 128

書式： K [: [最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ スタンダード2of5 (STF)

書式： H [: [最小桁数 [-最大桁数]]] [CD] [スタート ストップ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。Nを指定すると標準、Sを指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

□ GS1 DataBar (RSS)

書式： R



■ 読み取りコード (BHT-1300Q)

読み取りコードには、2DコードのQRコード、PDF417、MaxiCode、DataMatrix、EAN・UCC Compositeおよび共通商品コード(JAN, EAN, UPC)、インターリーブド2of5(ITF)、Codabar(NW7)、Code39、Code93、Code128、RSSがあります。

□ QRコード

書式: Q[: [シンボル種別 [最小コードバージョン] [-最大コードバージョン] [連結モード]]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロQR
M	QRモデル1
L	QRモデル2

シンボル種別を省略すると、マイクロQR、QRモデル1、QRモデル2を読むことができます。

最小コードバージョンと最大コードバージョンは、読み取り可能なQRコードの最小と最大のコードバージョンで、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コードバージョン	シンボル種別
1~4	S
1~22	M
1~40	L

最小コードバージョン ≤ 最大コードバージョンでなければなりません。

最小コードバージョンと最大コードバージョンの両方を省略すると、各シンボル種別の最大コードバージョンまでのQRコードを読み取ることができます。最大コードバージョンだけを省略すると、最小コードバージョンで指定したバージョンのQRコードしか読み取れません。

連結モードにEを指定すると、最大16分割されたQRコードシンボルの読み取りを許可します。

連結モードを省略すると、分割されたQRコードシンボルの読み取りは禁止となります。



連結コードの読み取りでは、ブザーの鳴動はは次のようになります。連結コードの最初のコードを読み取ると、ブザーが2回鳴動し連結コードの読み取りモードに入ります。その後は、連結コードを読み取るたびにブザーが1回鳴動し、最後のコードを読み取ると、3回鳴動して連結コードの読み取りを完了します。

連結コードの読み取り順序は任意ですが、すべての連結コードを読み取る必要があります。一度読み取った連結コードは、その連結コードの読み取りが完了するまでは、再度読み取りを行なっても読み取りません。

次の場合は、連結コードの読み取りが完了しなくても、連結コードの読み取りモードを終了して読み取ったデータはすべて破棄されます。

- ・ 連結コードでないQRコードを読み取った場合
- ・ 別の連結コードを読み取った場合
- ・ 読み取り口を3秒以上コードから外した場合
- ・ トリガスイッチを放した場合

連結コードの読み取り中は、連結コードの読み取りが終了するまで、QRコード以外の読み取りは禁止となります。

□ i QRコード

書式： G [: [シンボル種別 [最小コードバージョン] [-最大コードバージョン] [連結モード]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	正方形 i QR
R	長方形 i QR

シンボル種別を省略すると、正方形 i QR, 長方形 i QRを読むことができます。

最小コードバージョンと最大コードバージョンは、読み取り可能なQRコードの最小と最大のコードバージョンで、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コードバージョン	シンボル種別
1 ~ 6 1	S
1 ~ 1 5	R

最小コードバージョン ≤ 最大コードバージョンでなければなりません。



最小コードバージョンと最大コードバージョンの両方を省略すると、各シンボル種別の最大コードバージョンまでの i QR コードを読み取ることができます。最大コードバージョンだけを省略すると、最小コードバージョンで指定したバージョンの i QR コードしか読み取れません。

連結モードに E を指定すると、最大 16 分割された i QR コードシンボルの読み取りを許可します。

連結モードを省略すると、分割された i QR コードシンボルの読み取りは禁止となります。

連結コードの読み取りでは、ブザーの鳴動はは次のようになります。連結コードの最初のコードを読み取ると、ブザーが 2 回鳴動し連結コードの読み取りモードに入ります。その後は、連結コードを読み取るたびにブザーが 1 回鳴動し、最後のコードを読み取ると、3 回鳴動して連結コードの読み取りを完了します。

連結コードの読み取り順序は任意ですが、すべての連結コードを読み取る必要があります。一度読み取った連結コードは、その連結コードの読み取りが完了するまでは、再度読み取りを行っても読み取りません。

次の場合は、連結コードの読み取りが完了しなくても、連結コードの読み取りモードを終了して読み取ったデータはすべて破棄されます。

- ・ 連結コードでない i QR コードを読み取った場合
- ・ 別の連結コードを読み取った場合
- ・ 読み取り口を 3 秒以上コードから外した場合
- ・ トリガスイッチを放した場合

連結コードの読み取り中は、連結コードの読み取りが終了するまで、i QR コード以外の読み取りは禁止となります。

□ PDF 4 1 7

書式： Y [: [シンボル種別]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロPDF 4 1 7
M	PDF 4 1 7

シンボル種別を省略すると、マイクロPDF 4 1 7、PDF 4 1 7 を読むことができます。

□ Maxi Code

書式： X



□ Data Matrix

書式： Z [: [シンボル種別 [最小コード番号] [-最大コード番号]]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	正方形DataMatrix
R	長方形DataMatrix

シンボル種別を省略すると、正方形DataMatrix，長方形DataMatrixを読むことができます。

最小コード番号と最大コード番号は、読み取り可能なDataMatrixの最小と最大のコード番号で、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コード番号	シンボル種別
1～24	S
1～6	R

最小コード番号 ≤ 最大コード番号でなければなりません。

最小コード番号と最大コード番号の両方を省略すると、各シンボル種別の最大コード番号までのDataMatrixを読み取ることができます。最大コード番号だけを省略すると、最小コード番号で指定したコード番号のDataMatrixしか読み取れません。コード番号とセル数の対応は以下の通りです。

正方形DataMatrix

コード番号	ROW X COL						
1	10 X 10	7	22 X 22	13	44 X 44	19	88 X 88
2	12 X 12	8	24 X 24	14	48 X 48	20	96 X 96
3	14 X 14	9	26 X 26	15	52 X 62	21	104 X 104
4	16 X 16	10	32 X 32	16	64 X 64	22	120 X 120
5	18 X 18	11	36 X 36	17	75 X 72	23	132 X 132
6	20 X 20	12	40 X 40	18	80 X 80	24	144 X 144



長方形DataMatrix

コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL
1	8 X 18	4	12 X 36
2	8 X 32	5	16 X 36
3	12 X 26	6	16 X 48

EAN・UCC Composite

書式： V

共通商品コード、EAN-128、RSSのCompositeバーコードを読み取ることができます。

共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式： A [:[コード] [1文字目 [2文字目]]] [サプリメンタル]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13), UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

インターリーブド2 of 5 (ITF)

書式： I [: [最小桁数 [-最大桁数]]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁



までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Codabar (NW7)

書式： N [: [**最小桁数** [-**最大桁数**]] [**スタート** **ストップ**] [CD]

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの**最小桁数**と**最大桁数**です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された**最小読み取り桁数**から**99**桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートと**ストップ**は、**スタート**キャラクタと**ストップ**キャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、**スタート**キャラクタと**ストップ**キャラクタも含まれます。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 39

書式： M [: [**最小桁数** [-**最大桁数**]] [CD]

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの**最小桁数**と**最大桁数**です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された**最小読み取り桁数**から**99**桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。



□ Code 93

書式： L [: [最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ GS1-128/EAN-128/Code 128

書式： K [: [最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ GS1 DataBar (RSS)

書式： R

□ 多段コード読み取り

書式： &

多段コードを読み取るには、&を指定し、その後続けて読み取るコードを指定します。段数は3段まで設定できます。

& , <1段目読み取りコード> , <2段目読み取りコード> , <3段目読み取りコード> と設定してください。

多段コードとして指定できる読み取りコードは、共通商品コード、インターリーブド of 25 (ITF)、Codabar (NW7)、Code 39、Code 93、Code 128です。

(1) 多段コード指定は1段で読む読み取りコードの指定とは独立しています。

例：共通商品コードEAN-8とEAN-13の2段の場合

& , A : B , A : A



例：共通商品コードEAN-8を1段とCode39を2段の場合

A:B, &, M, M

2段コードは最後に指定します。

- (2) 2次元コードと多段コードを同時に指定で指定することができます。

例：QRコードとCode39 3段の場合

10桁のコードでCD付き

Q, &, M, M, M

- (3) 多段コード指定では先頭の2文字を指定することで読み取り順序を指定することが可能です。

例：ITF 3段（文字指定付き）次の順序で読み取る場合－「“12”で始まるコード」, 「“34”で始まる6～10桁のコードでCD付き」, 「“56”で始まる12桁のコード」

&, I::12, I:6-10C:34, I:12:56

- (4) コード種類が同じでデータも同じコードが含まれる場合は読み取りができません。

1段目 EAN-13 4912345678901

2段目 EAN-13 12000000000003

3段目 EAN-13 4912345678901

上記コードは、次の指定で読み取ることはできません。

&, A:A49, A:A12, A:A49

- (5) コード種類、桁数、条件が同じ指定を1段読み取りと多段コード読み取りに指定した場合、1段コードは読み取りができません。

1段コード EAN-13 4901234567894

多段コード EAN-13 4909876543214

EAN-13 12000000000003

上記コードは、次の指定で読み取ることはできません。

A:A49, &, A:A49, A:A12

- (6) 多段コード指定ではITFは4桁未満のものを読み取ることができません。ただし、桁数を指定した場合は読み取ることができます。

- (7) 共通商品コードのサプリメントコードの多段コード指定はできません。



■情報表示ファイル

○ファイル名

ファイル名は、HT内のファイル名と重複しないように、下記の書式で入力してください。

＜大文字半角英数字1～8文字＞. ＜拡張子（大文字半角英数字1～3文字）＞

（拡張子にPD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, ZIP, TMP
を使用しないでください。）

○データ構成

フィールドNo	構成データ
1	検索キー
2	情報表示データ

●フィールド情報ファイル

拡張子：. FLD

データ書式：

＜検索キーフィールド桁数＞, ＜情報表示データフィールド桁数＞

2) 入荷／出荷情報バーコード読取設定

「検品情報」をクリックして、入荷／出荷情報バーコードからのデータ読取を設定してください。

ここをクリック →

入荷検品設定 (BHT-1300)

検品情報定義

QRバーコード読取
読取桁数 最大 500 桁 最小 1 桁

納品書情報
納品書番号 1 桁目から 8 桁
 複数ページ
ページ総数 19 桁目から 2 桁
ページ 17 桁目から 2 桁
明細データ先頭 21 明細行データ桁数 20
明細行数 15 桁目から 2 桁

明細データ
品番 1 桁目から 13 桁
数量 16 桁目から 3 桁

設定項目	説明
QRバーコード読取桁数	QRバーコード読取の最大桁数と最小桁数を設定
納品書番号	納品書番号のデータ位置とデータ桁数を設定
複数ページ	納品書が複数ページの場合、ページ総数とページのデータ位置データ桁数を設定
明細データ先頭	明細データブロックの先頭位置を設定
明細行データ桁数	明細の1行データ桁数の先頭位置とデータ桁数を設定
明細データ行数	明細データ行数データの先頭位置とデータ桁数を設定
品番	明細行データ内の品番データの先頭位置とデータ桁数を設定
数量	明細行データ内の数量データの先頭位置とデータ桁数を設定



■ QRバーコードデータ

対象バーコードのデータ形式は、固定長データです。納品書情報ブロックと明細データブロックで構成されます。



□納品書情報



□明細1行データ



3) 動作設定

品番コードのバーコード読取設定と数量入力設定をします。数量入力の場合は、入力した数量が残数以下なら残数から減算します。数量入力しない場合は、バーコードを読取る度に数量1として処理して、残数から1減算します。また、OK/NGブザーの動作を設定します。

ここをクリック

品番コードのバーコード読取設定と数量入力設定をします

処理中の検品数と未処理数を表示します。

処理中の検品残り総数を表示します。

入庫検品/出庫検品のOK NGブザーを設定します。

設定項目	説明
品番コード 入力設定	[バーコード読取設定] ボタンをクリックして品番コードのバーコード読取を設定します。 「●バーコード読取設定」を参照してください。
数量入力	数量入力を設定すると数量入力項目を表示します。
OK/NG 表示時間	OK/NGを表示する時間を、1/10秒単位で0~99の数値を設定します。0を設定した場合は、表示しません。99を設定した場合は、どれかキーを押すまで表示し続けます。



●OK/NGブザー設定

OK表示時間 30 1/10秒 NG表示時間 30 1/10秒

OKブザー設定 NGブザー設定

OK/NGを表示する時間を、1/10秒単位で0~99の数値を設定します。
0を設定した場合は表示しません。99を設定した場合は表示し続けます。

OKブザー設定

WAVファイル

周波数 1 Hz 鳴動回数 1 回

鳴動時間 1 1/10秒 休止時間 1 1/10秒

動作デバイス ブザー

キャンセル 確定

WAVファイルを設定した場合は、WAVファイルを使用します。
WAVファイルを設定しない場合は、周波数、鳴動回数、鳴動時間、休止時間を使用してブザー、バイブレータを動作させます。

設定項目	説明
WAV ファイル	下記の形式の音声ファイルを設定します。 ① ファイル形式 WAV ② オーディオ形式 PCM (リニアPCM) ③ サンプル周波数 8KHz~48KHz ④ サンプルサイズ 8bit, 16bit ⑤ チャンネル 1ch (モノラル), 2ch (ステレオ) 2chの場合、leftチャンネルを再生
周波数	0=低音 1=中音 2=高音 62~5000Hz 3~61の値は設定できません。 0, 1, 2を設定した場合、「LCDコントラスト/ブザー/バイブレータの調整画面」でブザー音量を変更することができます。 62~5000Hzを設定するとブザーの音量は最大となり、変更することができません。
鳴動回数	0~99 0を設定するとブザーは鳴りません。
鳴動時間	1~99 1/10秒単位で設定
休止時間	1~99 1/10秒単位で設定
動作デバイス	ブザー, バイブレータ, ブザー+バイブレータから選択



4) データ保存

「データ保存」をクリックして「処理結果データを保存する」をチェックすると、入出荷検品処理結果を保存します。

ここをクリック

「処理結果を保存する」をチェック

フィールドNo	フィールドデータ	データ選択
1	HtNo	999 桁目から 4 桁
2	担当者	1 桁目から 6 桁
3	納品書番号	1 桁目から 8 桁
4	品番コード	1 桁目から 13 桁
5	検品数	999 桁目から 4 桁
6	欠品数	999 桁目から 4 桁
7	日付A (YYYY/MM/DD)	1 桁目から 10 桁
8	時刻A (HH:MM:SS)	1 桁目から 8 桁

設定項目	説明
ファイル名	処理保存して送信するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 <大文字半角英数字 1～8文字>. <拡張子 (大文字半角英数字 1～3文字)> (拡張子にPD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMPを使用しないでください。)
フィールド数	保存するデータのフィールド数を最大10フィールドまで設定します。
フィールド設定	HtNo, データ区分, 伝票区分, ロケーション, 商品コード, 商品情報, 予定数, 入庫/出庫数, 欠品数, 日付, 時刻から設定します。



■ フィールド設定

保存ファイルのフィールド構成を、H t N o、データ区分、納品書情報、納品書番号、品番コード、検品数、欠品数、日付、時刻から設定します。

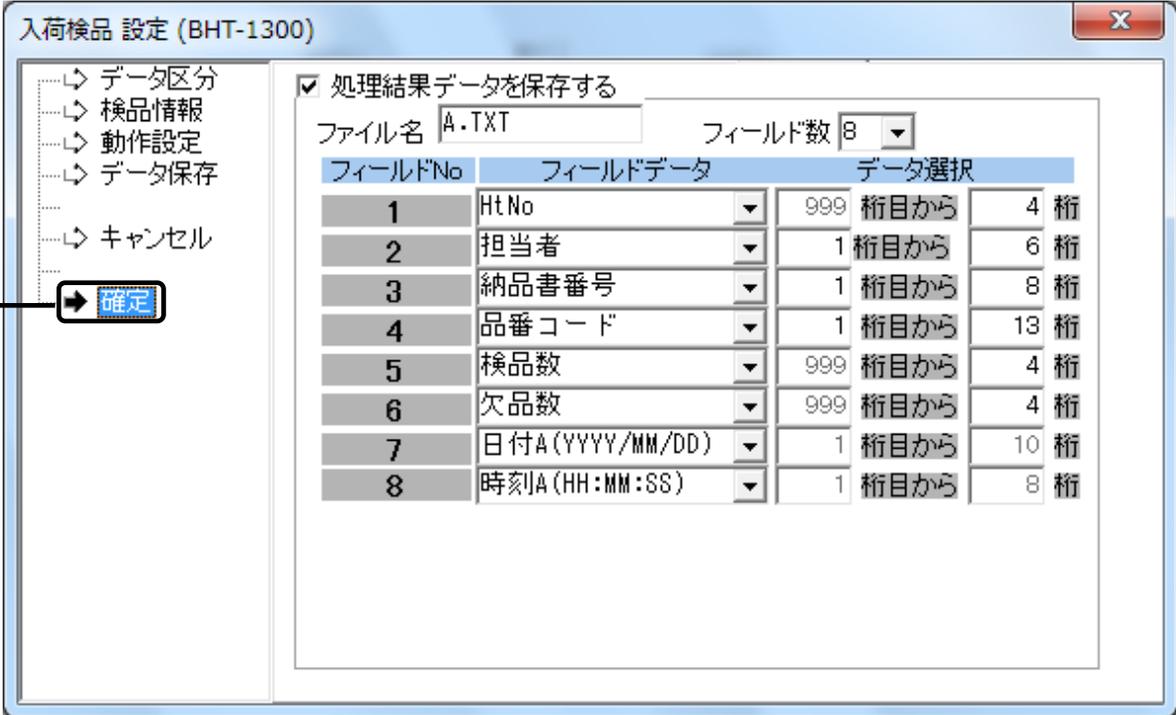
フィールドNo	フィールドデータ	データ選択
1	HtNo	999 桁目から 4 桁
2	担当者	1 桁目から 6 桁
3	納品書番号	1 桁目から 8 桁
4	品番コード	1 桁目から 13 桁
5	検品数	999 桁目から 4 桁
6	欠品数	999 桁目から 4 桁
7	日付A (YYYY/MM/DD)	1 桁目から 10 桁
8	時刻A (HH:MM:SS)	1 桁目から 8 桁

フィールドデータ	説明
H t N o	登録されている4桁のH t N o
データ区分	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
納品書情報	
納品書番号	
品番コード	入荷検品／出荷検品の処理をした品番コード
検品数	処理した検品数
欠品数	欠品処理した数
日付 A (YYYY/MM/DD)	システム日付をYYYY/MM/DD (10桁)の形式で保存します。
日付 B (YY/MM/DD)	システム日付をYY/MM/DD (8桁)の形式で保存します。
日付 C (MM/DD)	システム日付をMM/DD (5桁)の形式で保存します。
日付 D (YYYYMMDD)	システム日付をYYYYMMDD (8桁)の形式で保存します。
日付 E (YYMMDD)	システム日付をYYMMDD (6桁)の形式で保存します。
日付 F (MMDD)	システム日付をMMDD (5桁)の形式で保存します。
時刻 A (HH:MM:SS)	システム時刻をHH:MM:SS (8桁)の形式で保存します。
時刻 B (HHMMSS)	システム時刻をHHMMSS (6桁)の形式で保存します。



5) 設定更新

[確定] をクリックすると設定データを確定して更新します。設定は業務設定データに保存します。



ここをクリック

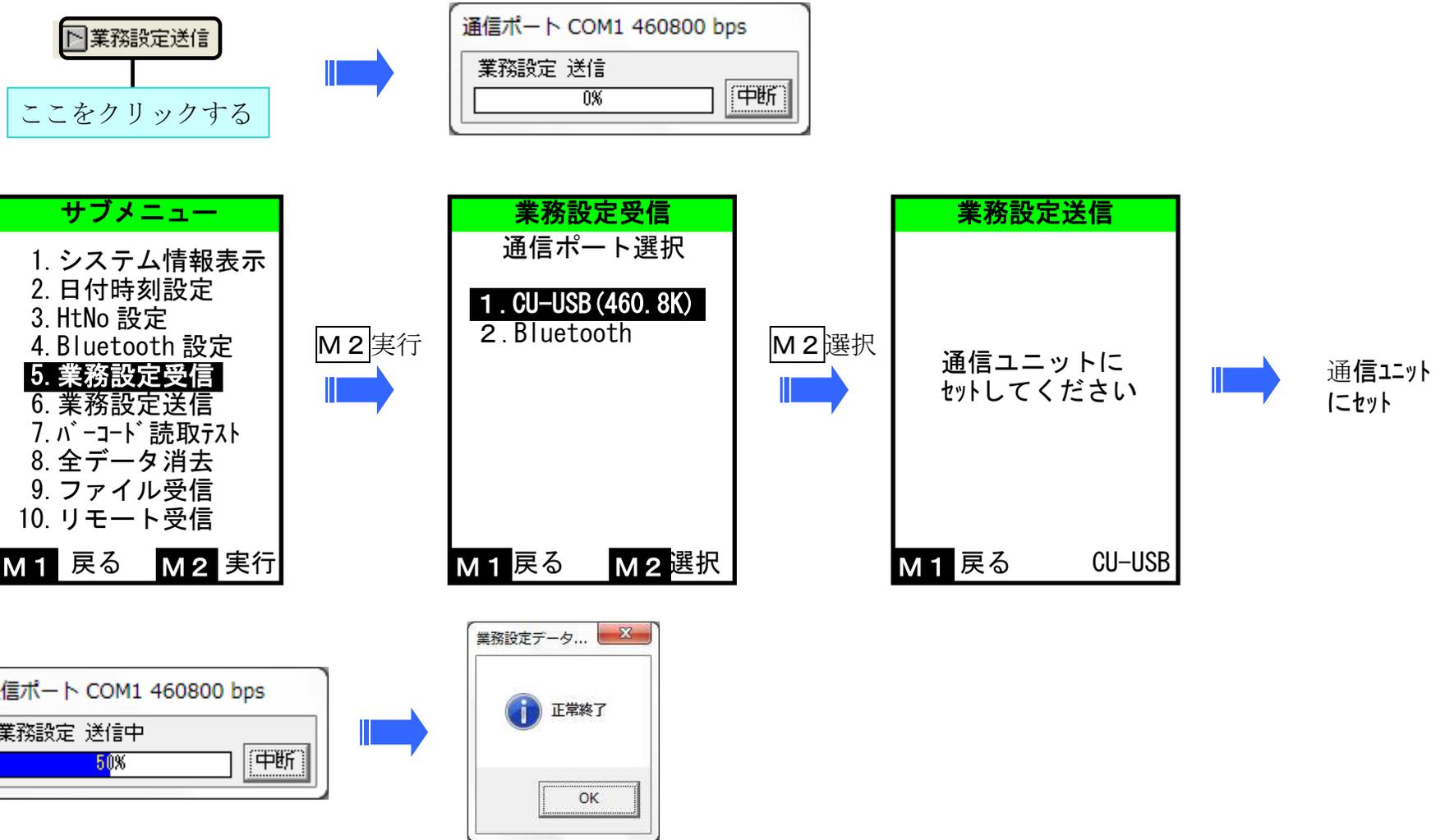
フィールドNo	フィールドデータ		データ選択	
1	HtNo	▼	999	桁目から 4 桁
2	担当者	▼	1	桁目から 6 桁
3	納品書番号	▼	1	桁目から 8 桁
4	品番コード	▼	1	桁目から 13 桁
5	検品数	▼	999	桁目から 4 桁
6	欠品数	▼	999	桁目から 4 桁
7	日付A(YYYY/MM/DD)	▼	1	桁目から 10 桁
8	時刻A(HH:MM:SS)	▼	1	桁目から 8 桁

設定データを取り消す場合は、[キャンセル] をクリックしてください。

2-3 業務設定更新

アドイン入出荷検品を設定した業務設定に更新します。

新規作成 開く 保存 送信データの外表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了



3 アドイン入出荷検品プログラム実行

3-1 検品処理画面

データ区分を設定した場合

業務メニュー ▼

- 1. 入荷検品
- 2. 出荷検品
- 3. データ送信

F1 Ver F2 サブメニュー M2 実行

M2 実行



入荷検品

データ区分

■

M1 終了 M2 確定

M2 確定



入荷検品

納品書情報バーコード
読取ってください

M1 戻る



入出荷検品処理画面



■入出荷検品処理画面

入荷検品	
納品書番号	000001
品番コード
数量
検品数
未処理数
残総数	10
M1 取消	F4 状況
M2 終了	

F4 キー
→

処理状況表示	
納品書番号	000001
品番コード	2060451680006
検品数	3
未処理数	2
残総数	10
M1 戻る	前:▲ 次:▼

品番のバーコードを読み取り、入荷情報と照合して検品します。処理数は、数量入力の場合は入力数を、数量入力しない場合は数量を1とします。この処理を繰り返します。残総数が0になると、終了画面を表示します。

検品数： 検品済み数
未処理数： 表示商品の残り検品数
残総数： 残り検品の総数

検品理画面のキー

M1：検品処理を取り消して前画面に戻ります。
M2：未処理数を欠品にして検品を終了します。
F4：現在の処理状況を表示します。

処理状況表示画面のキー

▲：前のデータを表示します
▼：次のデータを表示します
M1：処理画面に戻ります

NG ↓
OK ↓

入荷検品	
納品書番号	000001
品番コード	2060451680006
数量	1
NG	
検品数	3
未処理数	2
残総数	9
M1 取消	F4 状況
M2 終了	

入荷検品	
納品書番号	000001
品番コード	2060451680006
数量	1
OK	
検品数	3
未処理数	2
残総数	9
M1 取消	F4 状況
M2 終了	

検品終了
→

入荷検品	
納品書番号	000001
検品処理を終了しました	
M1 次検品	M2 終了

M1：次の検品情報読取画面に移る
M2：検品処理を終了して、業務メニューに戻る



M2による中断

入荷検品
納品書番号 000001
未処理データが あります
未処理データを 欠品にして 終了しますか？
M1 戻る M2 終了

M2 終了



入荷検品
納品書番号 000001
検品処理を 終了しました
M1 次検品 M2 終了

M1



入荷検品
納品書情報バーコード 読取ってください
M1 戻る M2 確定

M1 : 入庫検品処理画面
に戻ります
M2 : 未処理データを欠品
にして終了します。

M1 : 次の検品情報読取画面
に移る
M2 : 検品処理を終了して、
業務メニューに戻る



3-2 入力/データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、画面の最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

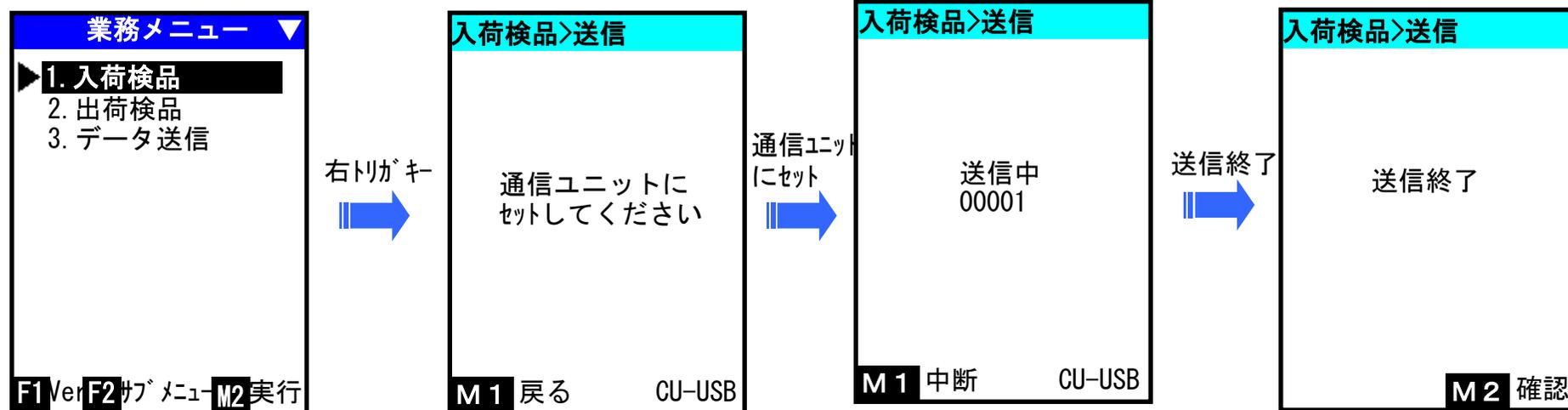
エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	1桁の入力もしないで入力確定した場合
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力画定した場合
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（0 詰め表示）と数字（0 サプレス表示）のデータ形式において、バーコードにCODE 39, CODE 93, CODE 128など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った場合
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した場合（例：日付のデータ形式において、月の値に20を入力した場合）
バーコード 桁数エラー	バーコード 桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
バーコード 長オーバー	バーコード 長オーバー	バーコード読取桁数が3500桁を超えた場合に発生します。
データチェックエラー	データチェックエラー	設定したデータチェックにおいてエラーになったの場合
バーコードデータエラー	バーコードデータエラー	部分照合モードにおいて、フォーマットが「カンマ区切り」, 「スペース区切り」, 「タブ記号区切り」, 「CR記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない場合
マスターファイルがない	マスターファイルがない	文字列表示用マスターファイルまたは照合マスターファイルがない場合
マスターに未登録です	マスターに未登録です	マスターファイルに検索データがない場合
処理エラー	処理エラー	上記以外のエラー

データ保存設定の場合、上記のエラーが発生した場合はデータを保存しません。



3-3 保存データ送信

業務メニューにおいて送信する保存データの業務を選択して、**右トリガキー**を押すと送信画面を表示します。



未送信の保存データがあると業務メニューに ▶ を表示します。